

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5 月 21 日現在

機関番号：32689

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2009～2011

課題番号：21653094

研究課題名（和文） 途上国教育における「リージョナル」の探求－国際的政策枠組みの理論化に向けた挑戦

研究課題名（英文） Research on “Regional” of education in developing countries
- A challenge for theorization of international policy framework -

研究代表者

黒田 一雄（KURODA KAZUO）

早稲田大学・アジア太平洋研究科・教授

研究者番号：70294600

研究成果の概要（和文）：本研究の成果は、政治経済社会のグローバリゼーションによって、従来国家（ナショナル）のレベルにおいて主な政策決定がなされてきた教育においても、地域的（リージョナル）なレベルでの政策の立案や実施の重要性が増しつつあることを明らかにしたことである。これらの成果は、様々な国際会議や出版を通じて、日本や国際社会の国際教育交流・協力・連携の実践・政策過程に対して、実際にインプットされた。

研究成果の概要（英文）：The main finding of this research is the growing importance of regional level governance of education, in which policy decision was traditionally made only in the national level, reflecting rapid political, economic, and social globalization. This research provided some implications for the actual practice and policy processes of international exchange, cooperation and linkage of education in Japan and Asian regional community through various settings of international conferences and publications.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	700,000	0	700,000
2010年度	1,200,000	0	1,200,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	300,000	3,200,000

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育社会学

キーワード：国際教育協力、国際教育交流、国際教育連携、国際関係論、教育援助、ユネスコ、ユニセフ、世界銀行

1. 研究開始当初の背景

国際的な教育に関するガバナンス体制の模索は、グローバルなレベルだけでなく、

リージョナルなレベルでも進展している。ヨーロッパでは、EU 統合の動きの中で、「ソクラテス・エラスムス計画」等の地域

教育計画が実施され、域内での国際的な教育交流と連携が急速に拡大している。北米 NAFTA やアフリカ連合 (AU) が既にそれぞれ教育をその対象としており、アジアでも「ASEAN 共同体」や「東アジア共同体」等の地域統合構想が教育を重要セクターとして位置付けて政策的議論を開始している等、教育の国境を越えた域内協力・交流・連携はますます大きく進展することが予想される。

申請者は、2007 年度から 2009 年度まで科学研究費 (基盤 A) の支援を得て、「教育の国際援助・交流・連携の政治経済学的探究—『国際教育政策学』の構築を目指して」をテーマに、ナショナルレベルでの教育政策の国際化過程・国際的調整を実証的に調査し、その理論構築を目指して研究を行ってきた。この主要な研究成果は、ユネスコ国際教育計画研究所との協力による 12 冊の翻訳・解説書の出版企画や『国際教育協力論集』『国際開発研究』における特集号として結実した。また、政策的にも、2010 年 9 月に、ニューヨークで開催された国連 MDGs サミットにおいて日本政府が発表した「日本の教育協力政策 2011-2015」の策定に本プロジェクトの研究結果が政策立案に取り入れられる等の成果があった。しかし、研究の過程で、教育の国際化をナショナルレベルの教育政策の集合体として分析するだけではなく、主体的・能動的な意図や政策決定メカニズムを有するグローバルもしくはリージョナルなガバナンス体制として理解し分析することが重要であることが認識されるようになった。

2. 研究の目的

本研究の主目的は、グローバル (ユネスコ、世界銀行等)、リージョナル (東南アジア文部大臣機構、アフリカ教育開発協

会等)、ナショナル (教育省、内務省等) の教育政策過程において、これまでほとんど研究されてこなかった「リージョナル」レベルに焦点を当て、研究を推進してきた。特にアフリカとアジアの 2 地域に焦点を当て、多種多様な形態を持つリージョナル機関を類分化し、アフリカ・アジア間で比較、検討を加え、国際開放体系下の教育政策過程の理論化を試みることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、リージョナルガバナンスに関係する国際機関と事例国の現地調査、それぞれの政策担当者に関する質問紙調査、及びその後の研究分担者・連携研究者及び国際共同研究者間での議論を中心に推進していく。その過程で、平和の維持・人権の保護・社会経済開発等の教育のリージョナルガバナンス体制の達成しようとする国際社会の価値・目標ごとに、ガバナンス体制とその政策決定過程を、国際機関、政府、教育機関等の参加アクターに注目して分析する。現地調査の結果は、国内外の諸学会での発表、ラウンドテーブルの開催を通して、世界の学術界に問い、国内外の関連する研究者との意見交換・討議を通して研究フレームワークの構築に努めることを計画していた。

研究結果は、国際会議での発表、国際的な学術誌への投稿を通して、学術界へ貢献し、関係省庁と共同でワークショップやシンポジウムの開催し、実践への貢献を行っていく計画を立てていた。

4. 研究成果

本研究による主な成果は以下の 3 点に分類される。

- ① リージョナルな機関の形態を類型化し、アジアとアフリカの 2 地域で比較、

検証を実施

リージョナル機関は複層的に多数、存在していることが確認された。リージョナル機関の中には国際機関から地域別に細分化されてきたもの、各国から類似のニーズが寄り集まって形成されたもの等、その多様な存在形態は非常に複雑であったため、まず、その多様な形態を類型化し、その後、2 地域(アジア、アフリカ)間の比較検証を実施した。

② リージョナルな機関が、各国の教育政策決定のプロセスに与えている影響の解明

各国の政策担当者や行政担当者が、実際に教育政策決定を実施する際、国際機関、国内機関が大きな影響力を持つ中でリージョナル機関がどの程度の影響をどの段階で与えているのか、調査、分析した。

③ 国際開放体系下での新たな教育政策過程の理論化

上記の2点の結果を通して、グローバル、リージョナル、ナショナル、それぞれの機関の役割と意義の体系化を試み、新たな研究フレームワークを提示した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 14 件)

①結城貴子、黒田一雄、幸田佳子、吉田和浩『東アジアの国際共同学位プログラム：新たな国際協力の展開に向けて』JICA 研究所ポリシーブリーフNo9 2012年3月

②Takako Yuki, Yeeyoung Hong, Kyuwon Kang, and Kazuo Kuroda “Cross-Border Collaborative Degree Programs in East Asia: Expectations and Challenges” JICA-RI Working Paper No. 39 2012年3月

③黒田一雄「東アジアにおける高等教育の地域的枠組みの形成と日本」『メディア教育研究』第8巻第1号 22-32頁 放送大学 2011年11月

④Kazuo Kuroda “Educational Development Experience” Toshihisa Toyoda, Jun Nishikawa and Hiroshi Kan Sato eds. Economic and Policy Lessons from Japan to Developing Countries Palgrave Macmillan, December 2011

⑤黒田一雄「比較教育学とはどのような学問かー教育開発研究からの視点」『比較教育学研究』第42号 日本比較教育学会 2011年2月

⑥黒田一雄「サブサハラアフリカにおけるインクルーシブ教育の可能性に関する予備的考察」『アフリカ教育研究 第1号』52-59頁 アフリカ教育研究フォーラム 2010年12月

⑦Kuroda Kazuo, Yuki Takako and Kyuwon Kang “Cross-Border Higher Education for Regional Integration: Analysis of the JICA-RI Survey on Leading Universities in East Asia” JICA-RI Working Paper No. 26 2010年12月

⑧黒田一雄・結城貴子共著『「東アジア共同体」における高等教育国際交流・協力に向けて』JICA 研究所ポリシーブリーフ No1 2010年

⑨黒田一雄「アジア地域の新たな地域連携教育フレームワーク構築に関する一考察ー既存10国際機関・大学連合の分析を基としてー」『アジア太平洋討究第13号』177-186ページ、早稲田大学アジア太平洋研究センター 2010年12月

⑩黒田一雄「アジア高等教育論」村井吉敬編『アジア学のすすめ 第2巻 アジア社会・文化論』弘文堂、2010年6月

⑪黒田一雄「ミャンマー」堀田泰司編『ACTS (ASEAN Credit Transfer System)と各国の単位互換に関する調査研究』平成21年度文部科学省先導的の大学改革推進経費による委託研究調査研究報告書173-181ページ、2010年3月

⑫黒田一雄「グローバル人材育成のための大学教育プログラムに関する考察」北村友人編『グローバル人材育成のための大学教育プログラムに関する実証的研究』文部科学省平成21年度国際開発サポートセンター・プロジェクト 2010年3月

⑬黒田一雄「教育分野における国際協力の世界的潮流」内田孟男編『平和と開発のための教育ーアジアの視点から』63-77p、国際書院、2010年2月

⑭黒田一雄「国際教育協力の再生ー平和・人権・開発の総合的アプローチ」国際開発学会『国際開発研究』第18巻2号、33-46ページ、国際開発学会、2009年

[学会発表] (計 7 件)

① “Cross-border higher education for regional integration: Analysis of the

JICA-RI survey for leading universities in East Asia.” (with Yuki Takako and Kyuwon Kang) 2011年5月
Comparative and International Education Society Annual Conference (Montreal)

② “Modeling Cross-border Higher Education in East Asia” (with Yuki Takako) 2010年12月 International Higher Education Forum 2010 (上智大学)

③ “Cross-border Higher Education for Regional Integration: Analysis of the JICA Survey for Leading Universities in East Asia” (with Yuki Takako and Kyuwon Kang) 2010年12月国際開発学会第21回全国大会 (早稲田大学)

④ “Political and Economic Implications of Cross-Border Higher Education in the Context of Asian Regional Integration” (with Yuki Takako and Kyuwon Kang) 2010年6月日本比較教育学会第46回全国大会 (神戸大学)

⑤ “Development Studies and Comparative Education: Contrasting characteristics among articles on education in developing countries appeared in various academic journals” (with Jun Kawaguchi)
2010年6月 World Congress of Comparative Education Societies (Istanbul)

⑥ “Political and Economic Implications of Cross-Border Higher Education in the

Context of Asian Regional Integration”
(with Yuki Takako and Kyuwon Kang)
2010 年 6 月 World Congress of
Comparative Education Societies
(Istanbul)

⑦ “Cross-border Higher Education in
East Asia: Empirical Analysis of Asian
Leading Universities and International
Collaborative Degree Programs” (with
Yuki Takako and Kyuwon Kang) 2010 年
3 月 Comparative and International
Education Society Annual Conference
(Chicago)

[その他]

2011 年 10 月に早稲田大学で開催された第 8
回アフリカ教育研究フォーラムを開催し、企
画セッション「アフリカにおける地域として
の教育開発の取り組み」を実施した。
発表者は、黒田一雄、山田肖子、西村幹子、
北村友人、川口純の 5 名である。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

黒田 一雄 (KURODA KAZUO)
早稲田大学・大学院アジア太平洋研究科・
教授
研究者番号：70294600

(2) 研究分担者

鴨川 明子 (AKIKO KAMOGAWA)
早稲田大学・大学院アジア太平洋研究科・
助教
研究者番号：40386545

(3) 連携研究者

北村 友人 (YUTO KITAMURA)
名古屋大学大学院国際開発研究科准教授
研究者番号：30362221

山田 肖子 (YAMADA SHOKO)
名古屋大学大学院国際開発研究科准教授
研究者番号：90377143
(H19→H20：連携研究者)

浜野 隆 (HAMANO TAKASHI)
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科
学研究科准教授
研究者番号：00262288

西村幹子 (NISHIMURA MIKIKO)
国際基督教大学 教養学部
准教授
研究者番号：20432552